



第二十二回

仙台青葉能

喜多流 能

三輪 神遊

人間国宝

友枝 昭世

和泉流

狂言

末広かり

人間国宝

野村 万作

喜多流 能

嵐山

佐々木多門



2019年5月18日(土)

午後1時30分開演(12時50分開場)

電力ホール(仙台市青葉区)

入場料(全席指定・税込)

S席 10,000円 A席 8,000円

B席 6,000円 学生席 2,500円

2月22日(金)10:00~一般発売

主催/仙台青葉能の会、(公財)仙台市市民文化事業団
河北新報社

共催/電力ホール

◆協力 仙台市博物館、中尊寺、(公財)瑞鳳殿
NHK 仙台放送局、伊達家伯(かほく)記念會
白石市古典芸能伝承の館「碧水園」

◆後援 宮城県、仙台市、宮城県教育委員会
仙台市教育委員会、仙台市能楽振興協會
TBC東北放送、仙台放送、三ツギテレビ
KHB東日本放送、Date fm
松井建設(株)東北支店

プレイガイド 藤崎、仙台三越
チケットぴあ (Pコード 492-446)
日立システムズホール仙台
仙台銀行ホール イズミティ21
河北チケットセンター (電話受付のみ)
☎ 022(211)1189 ※10時~14時 土・日・祝休
※学生席は河北チケットセンターのみで販売
※未就学児のご入場はご遠慮ください。

お問い合わせ 河北新報社事業部
☎ 022(211)1332 ※10時~17時 土・日・祝休

「三輪 神遊」
友枝昭世 所演

※伊達家より家紋使用許可済み



第二十二回

能葉青台仙

※伊達家より家紋使用許可済み

献香之儀

仙台伊達家十八代当主

伊達

泰宗

開演 午後一時三十分

喜多流

能

三輪

神遊

ワキ・玄實僧都

森

常好

大鼓 國川 純
太鼓 小寺真佐人
小鼓 鶺澤洋太郎
笛 松田 弘之

後シテ・三輪明神
前シテ・里女

友枝 昭世

アイ・三輪ノ里人 石田 幸雄

後見 塩津 哲生

中村 邦生
狩野 了一

地謡

友枝 真也 友枝 雄人
金子敬一郎 大村 定
内田 成信 香川 靖嗣
大島 輝久 長島 茂

——休憩二十分——

和泉流

狂言

末広かり

果報者 野村

万作

太郎冠者
すっぱ

中村 修一
深田 博治

喜多流

能

嵐山

ワキ・臣下

ワキツレ・従者

森

常好

大鼓 佃 良太郎
太鼓 小寺真佐人
小鼓 鶺澤洋太郎
笛 松田 弘之

後シテ・蔵王権現
前シテ・老翁

佐々木多門

アイ・蔵王権現ノ末社 飯田 豪

後見

佐藤 章雄
友枝 雄人

地謡

谷 友矩 内田 成信
大島 輝久 長島 茂
金子敬一郎 栗谷 明生
友枝 真也 狩野 了一

終演予定 午後五時二十分頃

能「三輪 神遊」

大和国(いまの奈良県)の三輪の山陰に、玄實(げんびん)僧都という高僧が、人里離れて草庵を結び仏道に専心しているところへ、ある女が毎日、仏前に供える閑伽水(あかすい)と櫛(しきみ)を摘んで持つてくるのでした。ある日、僧都はこの女に請われて衣を与え、その住み家を探ねると古歌を詠んで女は姿を消してしまいました。三輪の里人が、御神木の杉の枝に玄實僧都の衣が掛かっているのを見つけて知らせたので、僧都はその杉へと向かいます。杉の下枝には、はたして先の衣が掛かっており、金色の字で「三つの輪は清く淨きを唐衣くると思ふな」と思はじ」と、歌が書かれていたのです。

やがて三輪の女神が靈妙な姿をあらわして、三輪に伝わる神話や、天照大御神が岩戸隠れされた時の神遊びのさまを舞い語ります。伊勢の天照大御神と三輪の神は一体であることを示して、夜明けの光のうち、僧都の夢とともに女神は消えてしまふのでした。

この「神遊(かみあそび)」という、喜多流最高位の小書演出は、舞も囃子の演奏も高度の技術と精神力が求められる上、最も神聖な曲の「翁」と同じ意味の所作があり、本舞台でも舞われることは極めて稀です。

狂言「末広かり」

果報者が来客に末広かり(扇)を贈ろうと、太郎冠者を都へ買に行かせる。ところが末広かりが何のことか知らない太郎冠者。声を掛けてきた男の巧みな言葉に、古傘を末広かりと信じ込んでしまふ。大喜びの太郎冠者は早速屋敷に帰ると、古傘を果報者に見せるのだが……縁起物の末広かりを題材とする、祝賀的な和楽の世界をお楽しみ下さい。

能「嵐山」

古来、桜を御神木として大切にし、花の名所として讃えられてきた吉野山。その種を取って植えられた嵐山の桜。勅命により、帝の臣下が嵐山の花の検分に訪れます。満開の桜の下陰を掃き清める老人夫婦。嵐山の花も、吉野と同じ御神木であると臣下に教え、吉野山の由緒をも語って、花守として神木に仕える尊さを示しつつ、吉野山の木守・勝手の二柱の神であることを明かして、落日の光の中に消えてしまいます。

やがて木守・勝手の神がその姿をみせて、嵐山の花を愛でて相舞して遊ぶうちに、薫風があたり吹き渡り、金色の光を放つて蔵王権現が出現します。神秘の力を示して飛び翔り、天下泰平を祝福するのです。「嵐山」も神々が舞台に降臨して御代を寿ぎます。とつておきの祝賀の曲です。